

西沢田の
歴史・文化
二十選



西沢田自治会

もくじ

水神	17
山神社	16
山・水の神	
子安堂	15
小尾振神社	14
金山神社	13
稻荷神社	12
地元の神社	
帝釈院	11
伊勢神明神社・津島神社	10
子ノ神社	09
日吉神社での神事	08
境内の神社・石碑など	06
日吉神社	05
神社・寺院	
本冊子について	04
マップ	02

古墳	18
子ノ神古墳	18
馬見塚古墳	19
石碑	
まちはし橋桁	20
石塔類	
馬頭観音	21
道祖神など	22
自然	
穀水	24
西川ダム	25
伝統行事	
どんど焼き	26
その他	
根方街道	27
西沢田公会堂(さくら会館)	28
ワーキングメンバー	30
主要参考文献・あしがき	31
西沢田の古事	32

マップ (全体)

1 P19 馬見塚古墳



2 P25 西川ダム



3 P14 小尾振神社



4 P16 山神社
(中村・山崎)



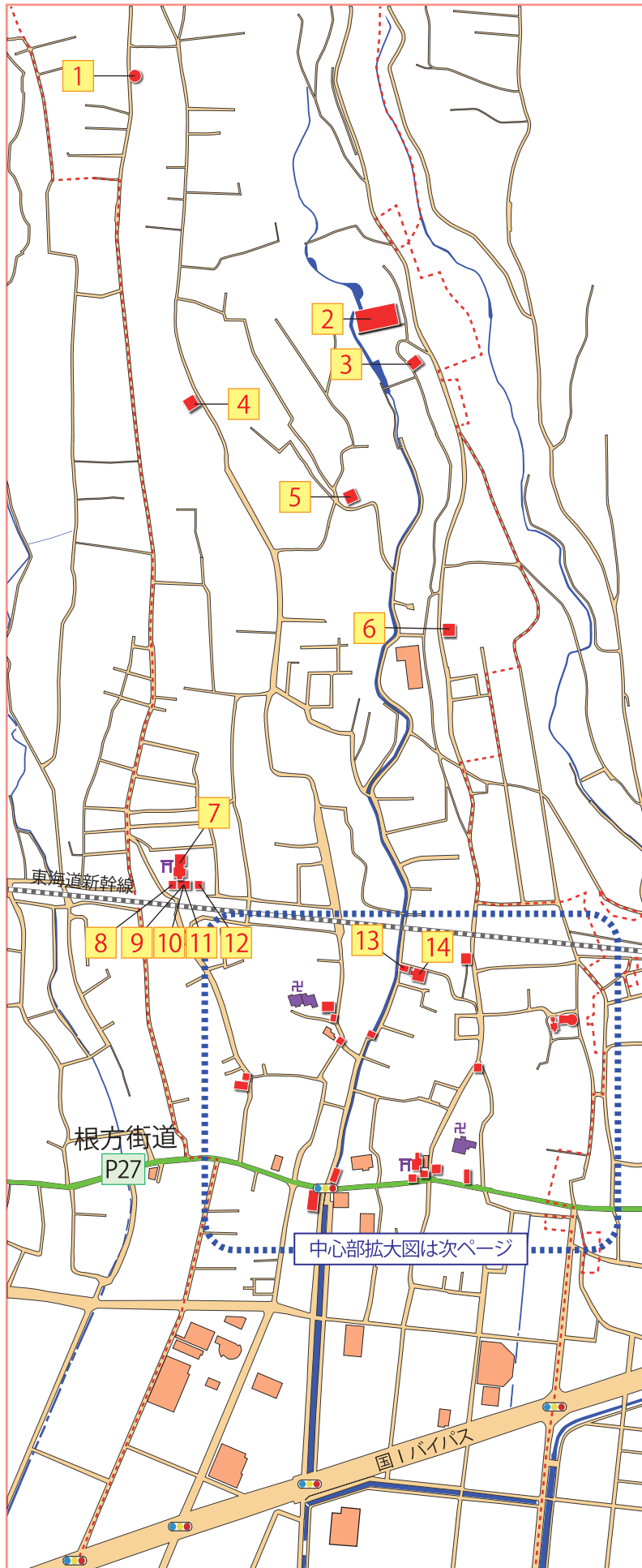
5 P16 山神社 (洞)



6 P16 山神社 (尾崎)



7 P05 日吉神社



8 P07 まちはし橋桁



9 P07 山神社



10 P06 疱瘡神社



11 P06 高尾神社



12 P06 享保の塔



13 P22 道祖神など
(帝釈院前)



14 P11 帝釈院



マップ (中心部拡大)

15 P12 稲荷神社



16 P13 金山神社



17 P22 水子地蔵など



18 P17 水神



19 P22 深沢氏宅前の石塔



20 P21 馬頭観音



21 P09 子ノ神社



22 P18 子ノ神古墳



23 P24 穀水



24 P28 西沢田公会堂 (さくら会館)



25 P23 公会堂前の石塔類



26 P10 伊勢神明神社



27 P23 道祖神



28 P23 子安地蔵尊など (伊勢神明神社境内)



29 P15 子安堂



30 P23 六地蔵、地蔵塔



本冊子について

西沢田には、古くから受け継がれてきた祈りや暮らしの記憶が、今も静かに息づいています。地域を見守る日吉神社、子どもの成長を願う子安堂、旅の安全を祈った馬頭観音――これらはいずれも地域の人々に寄り添い続けてきた存在ですが、今日では多くが日常の風景に溶け込み、気づかぬうちに見過ごされてしまうことも少なくありません。

そのような中で、これらの存在を改めて深く意識するきっかけとなったのが、十九個もの額縁に収められていた古い写真でした。ほとんどが白黒写真ですが、往時の地域の景色や、忘れられつつある歴史文化を今に伝えていました。

しかし、写真に写る施設の多くは、年月とともに、かつてのありさまを知る人も少なくなっています。だからこそ、こうした存在を知らない今の世代の人たちに、「西沢田にはこのような歴史と文化があった」ということを知ってもらいたい。そして、

記憶の中にかろうじて残されている地域の歴史や文化が、忘れ去られることなく、次の世代へと確かに引き継がれていってほしいという思いから、この小冊子を作りました。

本冊子は、文献調査、現地踏査、聞き取り調査を重ね、それぞれの歴史やその背景にある信仰や風習、人々の営みなどをまとめたものです。

本冊子の作成にあたり、調査や文献の解読、資料の提供、原稿の作成など、多方面にわたりお力添えいただいた5名の識者の皆さまに、心より御礼申し上げます。皆さまのご協力があったからこそ、この冊子を形にすることができました。

本冊子が、西沢田の歴史と文化を知る手がかりとなり、地域の歩みを未来へつなぐ小さな架け橋となれば幸いです。

令和八年一月

西沢田自治会

「西沢田の文化・魅力の発信事業」

ワーキングメンバー

代表 平松裕志



日吉神社

【山崎】

滋賀県の日吉
大社を総本社
とする神社

日吉神社は、永長元年（1096）、滋賀県大津市にある日吉大社から分起したとされ、大岡日枝神社が妹で日吉神社が姉の姉妹関係にあるとの言い伝えがあります。

とされています。また治水殖産の守護神、酒造の神、魔除けの神としても崇められています。

平安時代末、関白であった藤原師通が、ある事件が元で崇りを受け、重い病に罹り早逝。師通の母が供養を願い、日吉大社の御神霊を分祀し、領地で



鳥居から参道が日吉神社に続いている



日吉神社の社殿



あった大岡庄の庄園を寄進し、祀ったことが起源とされています。

創立年月日は不詳。貞享2年（1685）12月に再建。現在の社殿は、昭和37年の新幹線の敷設に伴い、昭和40年8月に新築されたものです。

明治8年（1875）に村社に格付けされたものの、戦後、社格制度は廃止。昭和21年に宗教法人の認可を受けました。

日吉神社では、毎年9月1日に沼津唯一とされる「風祭」、10月23日に「例大祭」、



すぐ南に新幹線 ドクターイエローの姿も

1月1日に「元旦祭」の式典が執り行われています。

正月には、地元の参拝者が数多く訪れ、おもてなしにお神酒や甘酒、ミカン、赤飯などが振舞われたりします。

過去には秋祭りや神楽舞なども行われていました。

境内の神社・石碑など

③ 疱瘡神社



御祭神は不明。疱瘡は天然痘とも呼ばれる感染症の一つで、疱瘡神は疫病神とされていてながら、深くもてなせば疫病退散のご利益がある神様として崇められている。

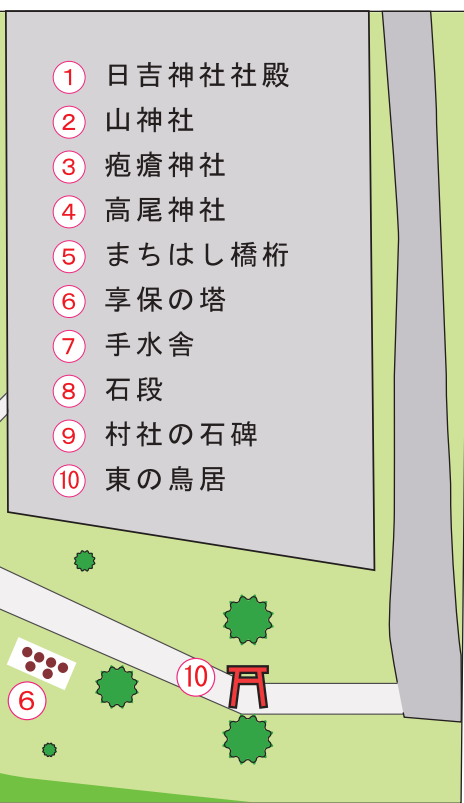
日吉神社の境内には、櫻や桜、イチヨウなど大きな木々が生い茂り、参道沿いには、山神社、疱瘡神社、高尾神社の三つの神社や享保の塔、まちはし橋桁などが静かに立ち並び、当時の時代背景や人々の生活、想いが偲べられます。

④ 高尾神社



御祭神は宇迦之御魂神。「お稲荷さん」の名前でも親しまれ、五穀豊穡、商売繁昌、家内安全、諸願成就の神として広く崇められている。

内の案内図



⑥ 享保の塔



上：昔の写真
下：現在



かなり風化が進んでいる。左側の石塔には「享保十六かのとい辛亥」、右側の石塔には「享保十五庚戌 十二月」と刻銘。享保年間(1716～1736年)の大凶作で多くの方が亡くなり、供養のために建てられた石塔。

⑦ 手水舎



参拝前や神事に参列する際に手と口を清めます。

⑩ 東の鳥居



②山神社



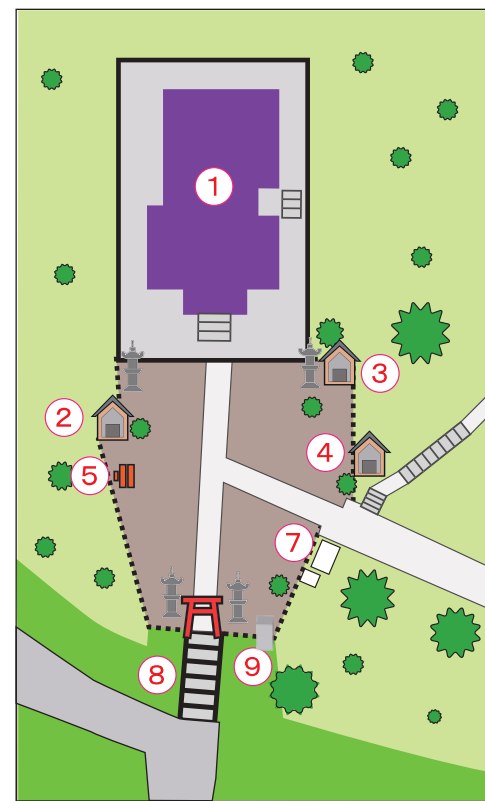
御祭神は大山 祇神。
山や自然を司り、農林業の繁栄をもたらす
山の神として祀られている。

①日吉神社



昔の日吉神社の写真

日吉神社境



⑤まちはし橋桁

平成5年に建
立された、言
い伝えのある
橋桁。(詳細
はP20 参照)



写真の右上は
山神社。

⑨村社の石碑

「村社日吉神
社」の石碑。
「村社」の文
字は埋められ
た跡が残って
いる。
側面に「昭和
十六年十月十
七日健之」と
刻銘。



⑧石段



石の階段を三十一段上りきると鳥居があり、
その先に日吉神社が佇んでいる。

日吉神社での神事

日吉神社では、「風祭」や「例大祭」、「元旦祭」などの祭典、正月の初詣など、様々な神事が執り行われています。

過去には秋祭りや神楽舞、百一重のお参り、小学校入学や成人式、結婚の報告、家庭の幸せを願ってのお参りなども。

村の人たちは日吉神社と深く関わってきました。



秋の収穫前の大風を鎮め、豊作を祈るために毎年9月1日（二百十日の頃）に行なわれる祭。風害だけでなく、水害や地震など広く自然災害が起きないように祈願します。沼津市内では他にあまり例のない祭です。

令和8年1月1日。日付が変わったばかりの深夜、日吉神社の初詣。初詣の列に並ぶ参拝者を、年番の方々がお神酒やみかん、お菓子であたたかく迎えてくれます。

平成8年、54年ぶりに復活した神楽の舞



左が西沢田の獅子頭、右が原木の獅子頭



かつて、西沢田でも一年間の無事と五穀豊穡を祈念して奉納される「奉納神楽」が行われていましたが、昭和17年を最後に途絶えていました。

平成6年、バラバラになっていた獅子頭を、当時、日吉神社年番だった芹澤正己さんが神社で偶然見つけ出し、これを青木由明さんらが修復したことがきっかけとなり、平成8年、中村親睦会の若手が中心となって54年ぶりに神楽の舞を復活させました。

かつて、西沢田でも一年間の無事と五穀豊穡を祈念して奉納される「奉納神楽」が行われていましたが、昭和17年を最後に途絶えていました。

平成6年、バラバラになっていた獅子頭を、当時、日吉神社年番だった芹澤正己さんが神社で偶然見つけ出し、これを青木由明さんらが修復したことがきっかけとなり、平成8年、中村親睦

子ノ神社

【尾崎】

古墳の上に建てられた、古墳を祀るための神社

御祭神は、オホクニスノミコト 大国主命。

創立年月日は不明ですが、子ノ神古墳を祀るために建立されました。

子ノ神古墳は、せいむてんのう 成務天皇から古代のスルガ国王である珠流河国造を任命された

かたかたしのみこと 片堅石命の墳墓と考えられています。

昭和21年3月、宗教法人となり、神社、土地、建物を無償で譲り受けました。

昭和39年10月、社殿が再建され現在に至っています。

社殿は、子ノ神古墳（前方後円墳）の前方部の位置に建てられています。

毎年、10月17日に例祭、1月1日に元旦祭が執り行われています。



昔の子ノ神社の写真



現在の子ノ神社



社殿は古墳の前方部。右（東）側の小高い山が後円部



大国主命は、国造りの神、国譲りの神で、「因幡の白兎」や「国盗り物語」などに登場する、日本神話における重要な神として有名。出雲大社の主祭神で、多くの神社で祀られている。



伊勢神明神社・津島神社

【尾崎】

伊勢神明神社には、御祭神である天照大神と、津島神社の御祭神である須佐之男命の二つの神がそれぞれ祀られ、相殿となつています。

また、末社として大山祇神を御祭神とする山神社（三峯社）も境内に祀られています。

伊勢神明神社は、一村の153人をもつて「神明神社」（無格社）を創立したのが始まりとされていますが、創立年月日は不明。

昭和21年3月、産土神として宗教法人の認可を受け、土地182坪、本殿、拝殿等を無償で譲り受け、昭和44年に改築されて現在に至っています。

相殿である津島神社は、元々は牛頭天王を御祭神とする「天王社」でした。

天明2年（1782）、天明の大飢饉が発生した当時、全国的に飢饉と疫病が蔓延したこと、強力な疫病除けの守護神である牛頭天王を祀るため、伊勢神明神社は天王社を相殿とし、再建したのではないかと考えられます。



しかし、明治元年（1868）、政府が神仏分離令を發布したため、神仏習合の神である牛頭天王から「仏」が排除され、「神」である須佐之男命が御祭神として祀られることとなり、「天王社」は「津島神社」になりました。

現在も「お天王さん」と呼ばれ親しまれているのは、天王社の時代の名残りと思われる。

津島神社の例祭日である7月14日には、毎年、「天王尊祭典」の式典が執り行われています。

過去には夜店や提灯が根方街道まで続くほど盛大に行われていました。



昔の伊勢神明神社の写真



現在の伊勢神明神社



帝釈院

【洞】

失せ物を帝釈院で願掛けすると、必ず出てくると言われています。

帝釈院は、沼津市岡宮にある光長寺（法華宗本門流の大本山、創建 1276）から独立した塔頭のひとつで、地域の菩提寺として祀られてきました。

創立は天正年間（1573）1591、浄土院日典上人を開山として元和8年（1622）

6月22日に開創されました。現在の帝釈院は、昭和42年11月に改築されたものです。

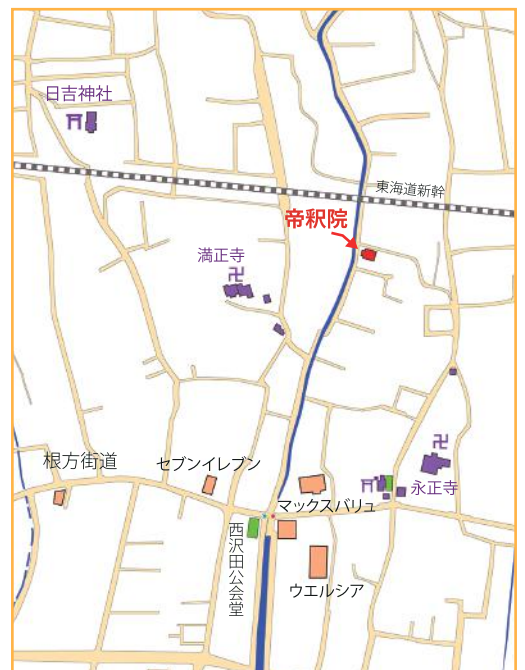
御開帳は、厨子に収められた、普段は公開されない御本尊を公開する行事で、わずか60年に一度しか行われません。前回は昭和55年（1980）



昔の帝釈院の写真



現在の帝釈院



8月15日、次回は2040年8月の予定です。

庚申祭、通称「おこうしんさん」は、60日ごとの庚申の日に信仰される行事で、洞町内有志によりお題目が唱えられますが、

コロナ禍以降は帝釈院役員6名のみで行われています。

「宗教法人帝釈院」として法人格を有しており、帝釈院の管理・運営を行っています。



おこうしんさんの祭壇の様子



祭壇には、お酒や団子、野菜、果物、お菓子、お膳などがお供えされます。

稲荷神社

【洞】

赤い鳥居を構え、境内
にきつねがあります。

御祭神は、宇迦之御魂命。

「お稲荷さん」として親しまれ、
商売繁昌、家内安全の神として広
く信仰されています。

創建は不明ですが、元治中年
(1864〜1865)、再建しました。

一旦、日吉神社に合祀するも、
本殿の老朽化が著しかったことか
ら、地区民の協力により昭和47年
2月に新築し、現在に至っています。

例祭日は2月の初午の日で、
広く稲荷の祭りの日として知ら
れています。

以前は、稲荷を祀っている家
では、前日に赤、黄、緑と
青などの4色又は3色の紙を
繋ぎ合わせたのぼり旗を作り、
正一位大明神などと墨で書き、
その横に子どもたちの名前も書き、
当日の朝、稲荷神社に持って行

き、地面に立て
ました。

またお稲荷さん
には、赤飯や油
揚げ、果物、大
根、ニンジンなど

の野菜を供え、あげてもらった
家にはお礼として重箱に詰めた赤
飯や菓子配ったりしました。
現在は、洞町内番の音頭によ

り、前日稲荷神社にてお題目を
唱え、当日は、お菓子、みか
ん等を配っています。



稲荷神社の例祭



西側のきつね



東側のきつね

金山神社

【中村】

御祭神は
金剛夜叉明王

通称「金山さん」。

満正寺の入口の右側の坂の上にあります。

建てられたのは約370年前で、満正寺と同じ頃。

金剛夜叉明王が祀られていますが、現在は、満正寺の本堂に安置されています。

金剛夜叉明王は、大日如来の化身である不動明王とともに、仏教（密教）における五大明王の一人で、火伏の神とも言われ、火を扱う、鉄工場の人達に深く信仰されていました。また、家内安全や厄払いなども願って信仰されてきました。



平成12、13年頃までは、毎年11月7日の縁日に、年番がお供え物を用意し、信仰者を集め、

満正寺の住職さんが一人ひとりにお香で清めた数珠を頭に当て、気合を入れて祈祷していたそうです。



金剛夜叉明王とは

元々は人を食らう魔人で人々に恐れられていたが、大日如来に調伏されて善に目覚め、仏教の守護神五大明王の一人となる。

以降は、悪人だけを食らい、善を守る神として崇められるようになり、戦勝祈願の仏として信仰されている。

金剛夜叉明王の一般的な姿は、三面六臂（三つの顔、六本の腕）で、怒りに満ちた恐ろしい顔をしているのが特徴。

6本の腕には、金剛鈴、弓、矢、剣、法輪などの神具を持ち、体の周りは火炎で覆われている。

小尾振神社

【中村・山崎】

小尾振神社、通称「こおぼりさんじや」「こおぼりさん」は、西川ダム（雨水貯留池）入口から広場に下る細い道の左側にあります。

毎年、1月、5月、9月の例祭

には、中村、山崎の町内の人たちが順番にお神酒や洗米、塩、魚、果物、野菜などをお供えし、お参りしています。

先人たちの話では、今の西川ダムの西側の端に大きな、深くて真っ青に見える淵があり、そこに2匹の



昔の小尾振神社の写真



現在は屋根がかけられている。



鯛はお腹側を合わせる。

龍が住み、小春日和には土手で日向ぼっこをしていたそう。その龍の1匹が大雨の時に流されて亡くなり、それからは雨が降るたびに西川が西に東に荒



鳥居の先に小尾振神社

れ、下流域の中村・山崎の田んぼに大きな被害が出ました。亡くなった龍を哀れに思い、中村・山崎の町内の人たちが神社を建立し、西川が荒れて西に東に振れる様子から、小さな尾を振る神社、小尾振神社と名付けたのではないかと考えられています。



9月15日のお参り

当時の自治会の行政への要望が実り、今の西川ダム（雨水貯留池）ができたのも、小尾振神社のお導きではないかと信じられています。

子安堂

【尾崎】

通称「子安さん」
安産祈願の「神社」

「子安神社」と呼ばれていますが、本来の呼称は「子安堂」。

安産と子どもの健やかな成長を願う子安講が主体となって建てられました。

旧子安堂は、現在のお堂よりこぢんまりしたもので、明治〜大

正の頃に、現在の場所にあったと推察されます。

昭和35年頃までは子どもが授かると地蔵像の前に赤飯を供える風習が見られました。

地蔵尊（石碑）は、もともとと現在の子安堂の南側にあつ



昔の写真（額に入っていたネガフィルムより）



現在の写真



た貯水池の前にありましたが、昭和35年頃の根方街道の拡幅工事の際、伊勢神宮神社境内の南東側へと移され、現在に至っています。

現子安堂は、昭和44〜45年頃に新築され、その奥には「子安之尊」

と書かれた石碑が祀られています。



○現子安堂は、尾崎の久土つねさん、佐藤愛子さん、深澤キヨ子さんが中心となって寄付を募り、総代や役員の承諾を得て、建てられたものです。

○現在、子安堂の鍵の管理は尾崎町内番が行っています。

○昔は、若いお嫁さんたちの不満のはげ口、ストレス発散の場にもなっていたそう。



手前の石碑が子安堂の地蔵尊



子安堂の奥に「子安之尊」

山神社

【尾崎】

【洞】

【中村・山崎】

山神社は、尾崎、洞、中村・山崎の三つの町内にそれぞれあり、山の神様が祀られています。

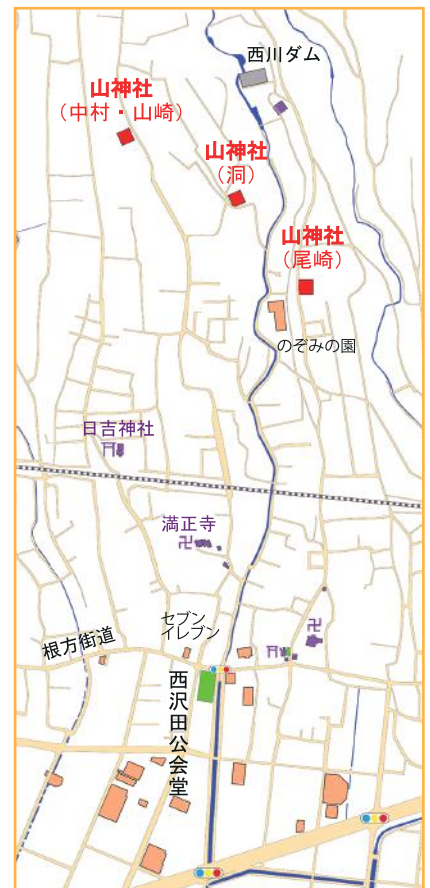
祭事の始まりの時期は不詳ですが、農業に従事する人たちが五穀豊穡を祈念して始めた行事で、

どの神社も年3回、1月16日、5月16日、9月16日に祭事が行われています。

神社に奉納するお供え物は、各町内で若干異なりますが、お神酒、塩、洗米、魚などのほか、

白団子やお餅、果物、野菜などもあります。

また、竹で弓を作り、戌亥・北西の方向に向けて立てます。



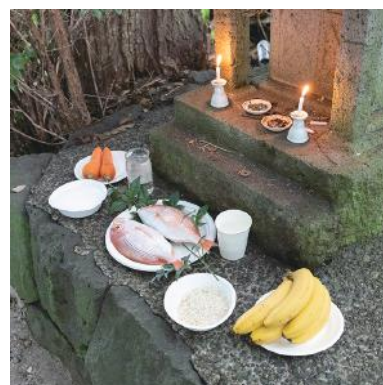
尾崎の山神社



洞の山神社



中村・山崎の山神社



1月、5月、9月にお供えします 魚はお腹を向かい合わせにします。

水^{すい}神^{じん}

【中村】

【山崎】

長寿会館の前に水神の石碑が建てられています。石碑の裏には「昭和二年八月一日山田恵作建」と刻まれています。

この場所には、かつて大きな湧水の貯水池があり、稲作用水として、また生活用水として貴重で、湧水量が少なくなると水神さまに願掛けしていました。



水神は、山崎の穀水の近くにも建てられています。かつては、その場所にも3畳くらいの湧水池があり、田んぼに水を引いたり、農作業で汚れた体を洗ったりしていました。



長寿会館前の水神



昭和二年八月一日山田恵作建

この貯水池は、山田恵作さんが作ったもので、玉石を組んできれいに仕上げてありました。学校のプールぐらいの大きさがあり、深い池でしたが、暑い夏には子供たちが水遊びをして遊んでいました。

貯水池の東側の端には大きな松の木があり、その枝を飛び込み台にして飛び込んで遊んでいると、池の前を通る大人達に叱られるので、大人の目を盗んで飛び込んでいたそうです。



山崎の水神

子ノ神古墳

【尾崎】

長塚古墳、神明塚古墳とともに市内の3つの前方後円墳の一つ

子ノ神古墳は、長塚古墳、神明塚古墳とともに、市内に残る3基の前方後円墳の一つです。

昭和45年2月、沼津市文化財（史跡）に指定されています。

前方部には子ノ神社があり、その造成工事の際、大半が削り

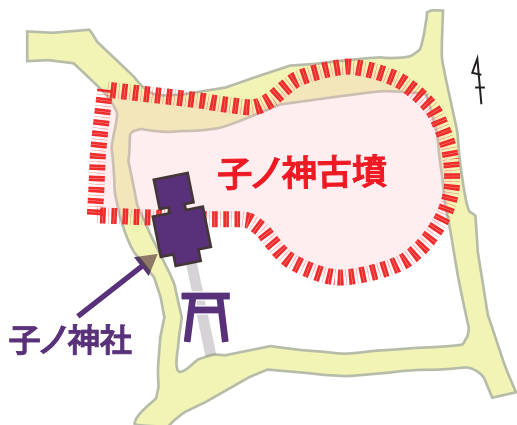
取られ原形をとどめていませんが、社殿の北側に細長く残った墳丘の一部が認められます。

その東側に位置する後円部は、小高い丘となっていますが、後円部と接する東側と北側を通る市道により変形し、方形に近い形になっています。

昭和31年の測量調査では、長さ48m、後円部直径27m、前方部



左の神社のある場所が前方部、右手前の小高い林が後円部



子ノ神古墳があると思われる場所（イメージ）
「沼津市史 資料編 考古 H14.3.29」を参考に作成



幅14mと報告されていますが、平成11年に行ったトレンチ調査などの結果から、後円部直径36m、前方部長28m前後、全体像は東沢田にある長塚古墳（全長54m、6世紀前半建造）に匹敵する可能性があると考えられています。

発見されたと言われています。子ノ神古墳の年代は出土品が土師器壺の胴部小破片のみであることから、確定するには至っていませんが、現在では、長塚古墳と同じく古墳時代後期（6世紀）とする従来の考え方と、墳丘の形態や出土した土器片を根拠に、古墳時代前期（4世紀）とする説があります。

この古墳に葬られた人は、その規模から同時のスルガの国の有力な豪族（スルガ国王の片堅石命）だと推定され、その権力を誇示するために前方後円墳を造営したと考えられています。



馬見塚古墳

沼津市内で最も墳丘かんきゅうが良く残されている古墳のひとつと言われ、円墳で横穴式石室の一部が南側に残っていますが、現状は林齢20〜30年生のヒノキ林の一部となっています。

6世紀後半から7世紀後半にかけて作られた古墳と考えられています。未発掘のため内容はよく分かっていません。

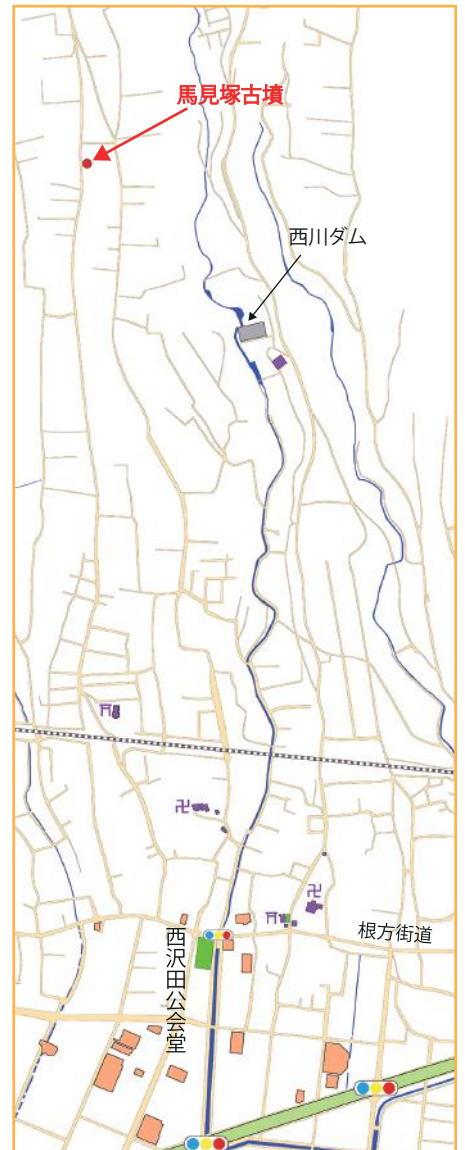
「馬見塚」という名称は、

以前には野生の馬がいたため、山を下りて畑を荒らさないよう見通しの良い墳丘の上で見張っていたことから、その名前が付けられた

とされています。

付近には馬鼻芝古墳がありました。現在は残っていません。

ちなみに馬見塚古墳の所在地の字名も「馬見塚」です。



道路南側から



道路北側から；古墳が小高くなっている。



北側から；古墳がこんもり盛り上がっている。



北東側から；古墳はヒノキ林となっている。

まちはし橋桁

【山崎】

まちはし橋桁は、山崎の平松成器さんのお父様の平松重美さんの田んぼ脇を流れる水路にかけられていたようですが、日吉神社にゆかりのある橋桁であることから、平成5年3月に日吉神社に奉納され、碑が建てられました。まちはし橋桁には、次のような言い伝えがあります。

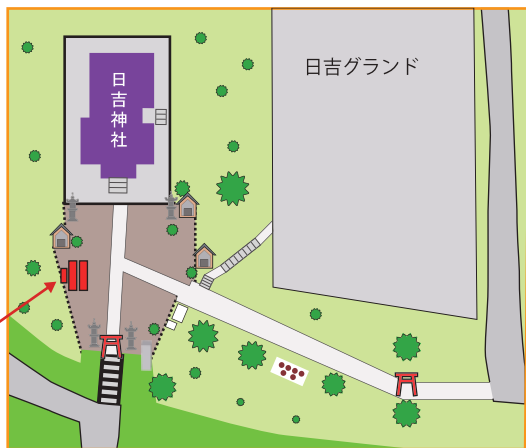
日吉大社分霊御祭神を背負い、沼津の地に着いた姉妹の神子が、待ち合わせ場所として松川にかかる石橋を約束し、姉の神子がその橋桁に腰を掛けて妹を待っていました。するとそこに大きな白い犬が現われ、追いかけて山崎地内に



左手前がまちはし橋桁 右奥が日吉神社



逃げ込みました。ほっと一息、こんこんと湧き出る清水で喉をうるおし、現在の日吉神社境内に御祭神を祀ったそうです。御祭神である大山咋神は、地元の守護神、また豊作の神、魔除けの神として崇められ、今日に至っています。以後、西沢田地区では、白い犬を飼ってはならないと言われていました。



碑の裏の刻銘

まちはし橋桁

馬頭観音

【尾崎】

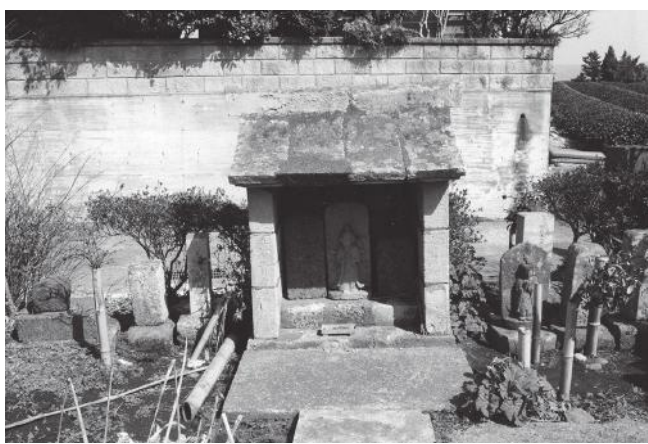
六観音のうちの一つ

馬頭観音は、観音菩薩（観音さま）の六つの変化身（六観音）の一つで、頭の上に馬をいただいている姿から、馬の守護仏として広く信仰されています。

農業集落であった西沢田では、馬は多くの農家で農作業にはなくてはならない農耕馬として、

また、毎日共に働き、暮らす「相棒」として、家族同様大事に飼われていました。

惜しまれながらも命脈尽きた馬を悼むため、宝暦2年（1752）、永正寺4世・察堂恵観和尚が、現在の地に馬頭観音の石仏と一対の供養塔を祀りました。



昔の馬頭観音の写真



現在の馬頭観音



頭上には馬の頭が冠のように載っています。

石仏と一対の石塔を包むように立っている石の祠は、自然風化を防ぐため、後年になって村人たちの手によって建てられたものです。祠には「大正5年2月建立」と記されています。

立の年代は読めませんが、いずれも自分の飼っていた馬の供養のために個人が建てたものです。「昭和50年8月」と刻まれた石塔が一基あり、その頃はまだ馬を飼っていた家があったことが窺われます。



中には個人で建てた石塔も（左側）



- 永正寺住職が「馬頭観音」の幟旗を立て、花を手向けて供養を続けています。
- 代々言い継がれてきた農家の子孫が供養に訪れる姿も見られます。

道祖神など

【尾崎】
【洞】
【中村】

道祖神、地蔵塔
甲子塔、庚申塔
題目塔・馬頭観音
子安地蔵尊
水子地蔵 など

西沢田内の道沿いや神社境内などには、道祖神や甲子塔、庚申塔、

題目塔、馬頭観音などの石塔類が至るところに建てられています。



帝釈院の前に立っている石塔。左端は道祖神、手に笏しやくを持っている。中央の2基は題目塔、右端は地蔵塔。



満正寺の境内に水子地蔵が立っている。



入口左に「子育て水子地蔵大菩薩安置」の碑



入口右に題目塔。「南無妙法蓮華経法界 享保三年戊二月十五日」と刻銘。



深沢氏宅前の橋の袂に石塔二基が立っている。左は甲子塔で「甲子塔 寛政六甲寅歳」と刻銘。右は馬頭観音で「天保十年□□□」と刻銘。



④～⑦ は次ページ

道祖神とは、村の中心や村の境目、道の辻、三叉路などに石碑や石造の形で祭られる神で、村から出ていく人の安全を願うほか、悪疫の侵入を防ぎ、村人を守る神として、また五穀豊穡、子孫繁栄、近世では旅や交通安全の神としても信仰されている。



道祖神

伊勢神明神社の南の根方街道沿いの一段、高い所に立っている道祖神。手に笏しやくを持っている。



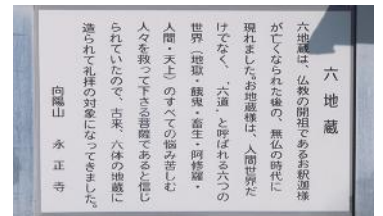
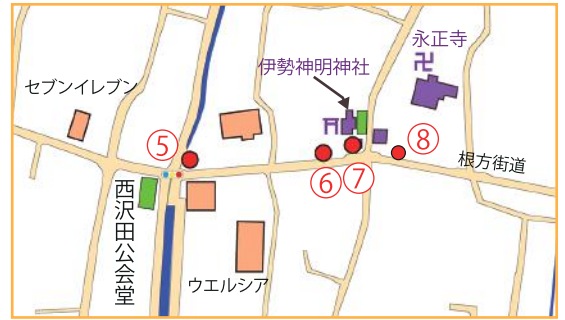
馬頭観音 道祖神 道祖神 題目塔

公会堂の北側の道路沿いに西向きに立っている。左端は馬頭観音で、頭の上には長い耳の馬の頭が。左から二つ目と三つ目の道祖神には、それぞれ「嘉永五〇子年」「中村 山崎 中〇」「道祖神 西沢田 〇〇〇〇」と刻銘。右端は題目塔で、「南無妙法蓮華経法界萬霊」と刻銘。満正寺の入口の目印として建立されたものと考えられている。



庚申塔 庚申塔 甲子塔 子安地藏尊


伊勢神明神社境内に南向きに立っている石塔（写真は北側から撮影）。左の庚申塔には、「延享元年甲子七月吉祥日 講中」と刻銘。左から二つ目の庚申塔には、「庚申塔 安永五年丙甲二月〇日」と刻銘。右から二つ目は甲子塔で「延享元年五月吉祥日 西沢田邑講中」と刻銘。右端は子安地藏尊と思われる。




永正寺の前の地藏塔と六地藏。赤い帽子とよだれ掛けを着ている。写真左の地藏塔の台座に「念佛講中 寛延三年 庚午十一月」と刻銘。六地藏については、「六地藏は、「六道」と呼ばれる六つの世界（地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天上）のすべての悩み苦しむ人々を救って下さる菩薩であると信じられていた」との記載あり。



地藏塔 六地藏

きのえねとう こうしんとう だいもくとう
甲子塔、庚申塔、題目塔とは 

- 甲子塔（きのえねとう、かつしとう）は、十二支の「子」の日と、十干の「甲」の日を組み合わせた「甲子」の日を記念して建立された石の塔で、大黒天を祀る甲子講の行事の一環として建立された。
- 庚申塔は、中国から伝来した道教に由来した庚申信仰に基づいて建てられた石塔で、60年に一度の庚申の年に建立される。道祖神のように村や辻の守り神の役割を果たしていた。
- 題目塔は、南無妙法蓮華経と刻まれた供養塔で、主に亡くなった人の魂を鎮めることを目的として建てられた。

こうしんしんこう
庚申信仰 

人間の体の中には「三尸」という虫が住んでおり、庚申の日の晩になると、人間が眠っている間に三尸が体内から抜け出して天に上り、天帝にその人の悪口を告げ口すると言われていた。そこで、三尸に告げ口されないために、庚申の日の晩は眠らずに夜を過ごすという考え方が広まったという。洞町内では、年6回、庚申講が継続されてきました。

穀水

【山崎】

日吉神社の奉納の祭に欠かせない愛鷹山からの湧水

穀水は、「ごくみず」「ごくすい」「ごくすい」とも呼ばれます。

愛鷹山に降った雨は地下水となつて流れ、豊富な湧水となつて湧き出し、かつて田んぼを潤していました。

山崎の下方、根方街道の南側に「穀田」という田んぼがあり、そこに愛鷹山の湧水「穀水」を引

いて日吉神社に奉納するためのもち米を作っていました。

「穀田」で収穫したお米は「穀水」で洗い、「穀水」でもち米をふかし、「穀水」を使って餅をつき、お供え餅を作つて日吉神社の御祭神、大山咋神オオヤマキノカミに献上されていました。

日吉神社の大祭に捧げる穀は、「穀水」でなければ上手にできない

との言い伝えがあります。

この穀水を復活させるため、水利組合役員、自治会役員、氏子総代らが平成4年10月に石造りの自噴井戸と記念碑を建てました。

この井戸は3段式になっていて、上段が飲料用、中段が食器の洗い場、下段が野菜その他の洗い場として利用されています。

この「穀水」のある場所には、もともと3畳くらいの湧水地があり、水遊びしたり、農作業で汚れた体を拭いたりしていたそうです。



どんど焼き

市内でも
数少ない
行事のひ
とつ

どんど焼きは、正月飾りやしめ縄、正月の書き初め、前年のだるま飾りやお守りなどを焼く、正月にまつわる行事のひとつで、五穀豊穡、商売繁盛、家内安全、無病息災を願って行われます。

また、正月飾りを目印に家に来ていただいた年神様を、正月飾りなどを燃やした煙とともに見送るといふ意味もあります。どんど焼きで燃やすやぐら

は、「おんべ」と言われる大きな孟宗竹を束ねて芯の部分を作り、その周りを「こんべ」と言われる小さな竹を小さな束にして巻き付け、大きな形に整えて、最後にしめ縄でお飾りを巻き付けながら縛って完成です。

中心の大きな孟宗竹の先端には、大きな達磨を吊り下げます。昔は、太鼓を叩きながら、子どもたちが「もつけるどどん・どん・どん」と言いながら村の

中を歩き、どんど焼きの始まりを知らせていました。火を付けると子どもたちは大きな歓声を上げ、書初めが燃えて高く舞い上がると、字が上手になると喜んでいました。

昭和の終わりころまでは、根方街道南側の田んぼで行われていましたが、開発が進み、田んぼが無くなったため、どんど焼きは行われなくなりました。

その後、平松繁太郎さんや中村の親睦会の方々のご尽力により、西川ダムの多目的広場にてどん

ど焼きが復活しました。朝6時、火を付けると炎が高く舞い上がり、明るくなると同時に、冷えた体が温まります。

火が小さくなると、竹に刺したお団子を焼き、それぞれの家庭に持ち帰って頂きます。

どんど焼きの竹を箸にして1月15日におかゆを食べると、一年無事に過ごせると言われています。



○どんど焼きは道祖神のお祭り

どんど焼きはおんべ焼きなどとも言われ、他の地方では道祖神祭り（さえのかみまつり）とも言われます。道祖神は、外から悪疫・悪霊が入るのを防ぎ、村人

を守る神様として信仰されるだけでなく、風邪の神など子どもを守る神としても信仰されていました。そのため、道祖神のお祭りであるどんど焼きは、どの地域でも子どもたちが中心になって行われてきました。

根方街道

「根方街道」は、富士市、沼津市、三島市を結ぶ県道22号富士三島線の通称です。

古代においては、根方街道は吉原から浮島沼の北側を愛鷹山の麓に沿って通った道（根方路）で、さらに沼津から先は、長泉町本宿あたりから北に曲がり、御殿場を経て足柄峠を越える東海道のルートの一部でした。

後に浮島沼の南部を通り、海岸沿いに原から千本松原を経て三枚橋、黄瀬川に達する「浦方路」が開け、平安時代以前には浦方路から足柄峠を通る道が一般的な東海道であったとされています。さらに江戸時代に街道として整備されたことから、根方街道は「裏道」となって明治時代を迎えました。

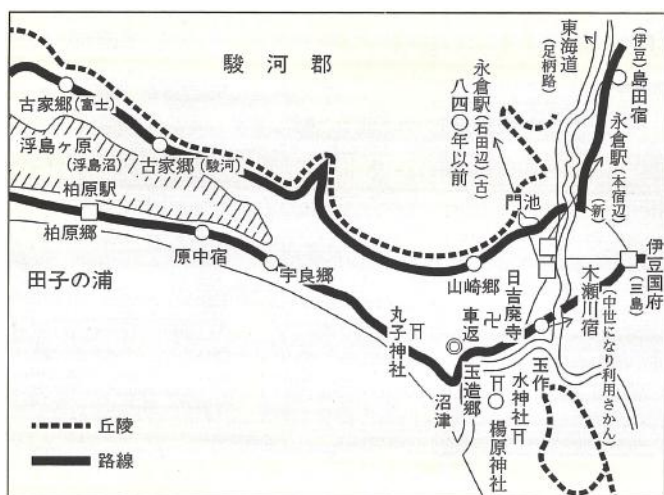
根方街道は、幅員が狭く、坂も多く曲がりくねっていたことが

ら、米や麦・茶・生繭などの農産品の輸送路として、道路改良への

要望が高まり、

明治26年に吉原、沼津両町をはじめとする沿線各村長による「根方街道改良工事発会」（今でいう「期成同盟会」）が設立され、県に対する陳情が重ねられました。

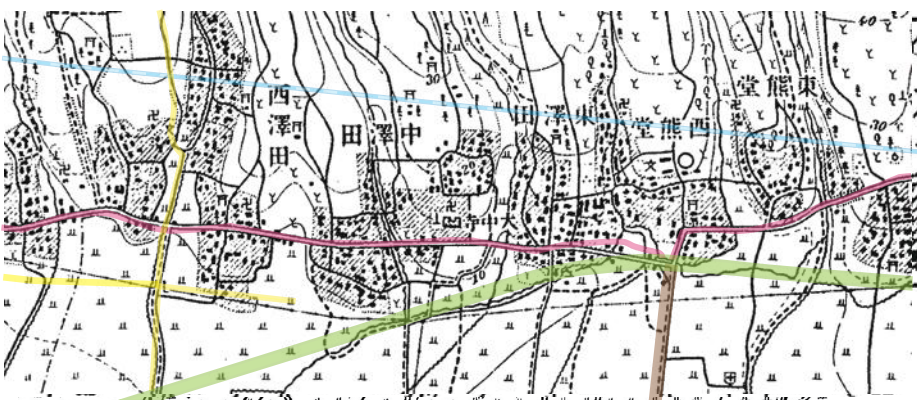
その結果、明治30年、吉原側から工事が始まり、ようやく明治41年になって金岡村での工事が



二つの東海道の道筋 沼津市教育委員会「沼津」より



国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図（明治 32 年測量）



国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図（大正 5 年測量）

※カラーは同発行令和7年地図から作成したイメージ（赤：根方道路、緑：国1バイパス、茶：リコー通り、青：新幹線）

開始され、大正元年に現在の根方街道が竣工しました。この根方街道は、「新道」と呼ばれました。

大正5年と明治32年の地図を比較すると、曲がりくねっていた道が是正（バイパス化）されていることが分かります。

さらに古い時代は、集落の神社と神社を繋ぐ道が根方街道だったという話や尾崎の馬頭観音のあるY字路を通っていた、現在の根方街道よりずっと北側を通っていた、と言った話も聞かれます。

にしさわ だこうかい どうかい かん 西沢田公会堂(さくら会館)



旧公会堂



旧公会堂の落成式



新公会堂「さくら会館」



新公会堂「さくら会館」の落成式：頼重市長、井原市議会議員、石原自治会長、後藤建設準備委員会委員長らによるテープカット

旧公会堂は、昭和53年1月に竣工。鉄骨2階建て延べ床面積356㎡、2階にはステージ付の大きな集会場(約144㎡)がありました。

平成27年、築40年近く経ち、老朽化と耐震性、安全性の面から建て替えの検討が開始されました。

平成29年、4町内各3名、自治会5役ら総勢18名からなる「西沢田公会堂建設準備委員会」が発足し、

6年後の着工を目指して検討が進められました。

令和5年、コロナ後の急激な資材高騰のあおりを受け、入札は不調に。鉄骨造を木造(在来工法)に変えるなど、大幅な設計変更を強いられ、1年遅れて工事着工。

建設準備委員会を立ち上げてから9年、60回以上の会合を重ね、令和7年3月23日、ようやく新し

い公会堂「さくら会館」が落成しました。

さくら会館は、木造1階建て、多目的集会場や会議室、老人つどいの家などがあり、自治会をはじめ子供会や長寿会、地元の同好会や福祉施設等に広く利用されています。





敬老会

2025/09/20



応急救命訓練



長寿会の新年会



こどもの居場所クローバーのハロウィン



自治会協議委員会

2025/11/08



日吉会定例会

西沢田の文化・魅力の発信事業
西沢田の歴史・文化二十選
作成ワーキングメンバー

【地元識者】



出口 泰規
(尾崎)



石原 晃
(洞)



青木 義久
(中村)



佐藤 孝敏
(洞)



杉澤 清嗣
(中村)



協議委員長
平松 幹雄
(山崎)



副自治会長
佐藤 敏春
(洞)



副自治会長
渡邊 操
(尾崎)



自治会長
平松 裕志
(山崎)

【自治会役員】

主要参考文献

沼津史談（No.40、45）（沼津史談会）

沼津市史資料編考古

沼津市史（中巻）

金岡の教育百年史（金岡の教育百年史

編集委員会編）

沼津（沼津市教育委員会）

静岡県史別編4

わが街の今とむかし（笹原俊雄著）

沼津の庚申信仰（木村博著）

日吉神社由来（青木由明著）



あとがき

本冊子は、西沢田に受け継がれてきた歴史や文化を未来へ継承することを願い、日吉神社や子安堂、馬頭観音など、地域に根ざした貴重な史跡について調査し、まとめたものです。

文献調査だけでは把握しきれない地域の記憶や、人々が大切にしてきた思いに触れることで、西沢田という土地の歩みの深さを改めて実感することができました。

今回の冊子作成は、沼津市市民憲章活動支援助成金を受けられたおかげで、調査や編集作業を進めることができました。ここに厚く御礼申し上げます。

また、文献調査、聞き取り、原

稿作成など、様々な面でご支援いただいた5名の識者の皆さま、そして聞き取り調査にご協力くださったご住職や地元の皆さまに、心より感謝いたします。皆さまのお力添えがなければ、この小冊子の完成には至りませんでした。

本冊子が、西沢田の歴史を知る一助となり、地域を大切に思う気持ちを育てるささやかなきっかけとなれば幸いです。末筆ながら、皆さまのご健勝と地域のさらなる発展を祈念いたします。

令和八年一月

西沢田自治会

会長 平松裕志

西沢田の歴史・文化二十選

2026年2月1日発行

発行 西沢田自治会

410-0007 沼津市西沢田 453-2 西沢田公会堂（さくら会館）

ホームページ

<https://nishisawada.com/>